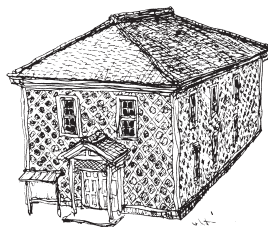


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デイベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。
三田演説館は、1875（明治8）年に開館した日本最初の演説会堂です。

●常任理事

こくりょうじろう
國領二郎

慶應義塾のオンライン活用への取り組みについて

まず何より、慶應義塾のこれまでの新型コロナウイルス感染症対策、特にオンライン授業による教育継続にご協力をいただいた塾生、塾員、保護者、役員、教職員全ての皆さまに心からお礼を申し上げます。情報基盤担当として教職員とともに全力を尽くしてまいりましたが、あちこちで立ち上がった相互支援の輪を見るにつけ、塾生諸君や教職員の自助、共助の果たしている役割の大きさをかみしめています。

問題が深刻化してきて以来、塾長の「塾生、教職員の生命健康を守ることを最優先する」「最悪の事態を想定して準備しつつ状況の変化に応じて機動的に対応する」「全ての塾生の学習の機会を保障する」という方針のもとに対応を進めてきました。ハード的なシステム強化だけでなく、教員の遠隔教育スキルアップや、受講準備する上で経済的困難がある塾生の支援や、相談窓口の用意などソフト的な対応にも心がけました。

キャンパス閉鎖に伴って職員も在宅勤務を基本とする中で、取り組みだったのですが、昨年より進めてきた業務オンライン化の一部がちょうど閉鎖に間に合っただけ稼働を開始していたのは

僥倖でした。さまざまなコミュニケーションツールも一気に普及しました。

2月中旬に担当部門に想定を指示した中でも最悪のシナリオ（全キャンパスが閉鎖されて使用不能になる）が現実化して、急激に負荷がかかる中で、システムトラブルも発生しました。他大学の大きなトラブルが報道される中で、わがチームはここまで本当によく守り、必要な新サービスを用意してくれてくれたと思う一方で、まだまだサービス面にも安定性面にも改善の余地があると痛感しています。

本稿執筆の5月末時点では、感染拡大が落ち着き、キャンパス閉鎖の一部解除の準備をしているところですが、今後の展開は予断を許しません。最悪の事態が再来しても、塾生や教員には世界最高のオンライン教育研究環境を、そして支える職員には安全で効率的な就業環境を提供すべく準備を進めます。それは平時にも役立つ、慶應義塾を次の時代に適応した学塾に進化させる作業であるとも考えています。